

2月12日のブログでも触れましたが、1月31日にペンシルヴェニア州チャッツ・フォードのワイエス家の近くにあるブランディワイン・リヴァー美術館でアンドリュー・ワイエスの追悼展がありました。

それにあわせて、今回の展覧会でも多くのワイエス作品を出品していただいている丸沼芸術の森の主宰者須崎勝茂氏と学芸員の中村音代さんが、訪米されました。その様子を教えていただきましたので、ここで少しご紹介します。

前日の30日、天気は快晴だったが、一面の雪景色。ブランディワイン・リヴァー美術館では、追悼展の準備がされており、正面玄関ではアメリカ式の喪中のしるしなのか、松のリースの下に黒い長い布がつけられたものがウインドウに並べてさげられていました。また、展示室入り口では、大きく引き伸ばしたワイエスの写真と共に、これまで多くの大学から贈られた数多くのメダルやバナーが展示され、またケネディ大統領や、一昨年ブッシュ大統領から贈られた大きなメダルも飾ってありました。

ワイエス・ギャラリーでは中央に、ニューヨーク近代美術館から特別出品された《クリスティーナの世界》が展示されていて、人だかりができていました。ニューヨーク近代美術館は絵の状態が悪いので貸し出しはしないと聞いていたのですが、注意深く見ても絵は完璧に思えました。そしてニューヨーク近代美術館で見たときよりもここではなぜか大きく感じられたということです。この作品の展示は翌2月1日までの2日間だけ。

翌日の追悼展の日は、一日限り無料開放で、朝開館15分ほど前に美術館へ行くと、開館を待つ人がすでに門まで100mほどの長蛇の列をつくっていました。これまで満杯になったところを見たことのない駐車場には、車が入りきれずに国道1号線沿いにも駐車列が出来ていました。予想通り、開館時間になると美術館の中はあっという間に大混雑。もともと、さほど広くはない美術館は人であふれかえり、ワイエスの作品と特に《クリスティーナの世界》を見ようとする人々の長い列が出来ていました。

日本における「?を偲ぶ会」式のセレモニーや宗教的な行事はありませんでしたが、多くの方がワイエスの画業を偲ぶために訪れていたということです。また、ワイエス家からの希望で、献花の気持ちがあれば、それに代えていくらでもいいのでと美術館に寄付を募っていました。寄付は日本からでもできま

す。ブランディワイン・リヴァー美術館のホームページ（→[www. brandywinemuseum. org/](http://www.brandywinemuseum.org/)）をご覧ください。

（S T）